

アムズの水処理技術、モロッコに貢献

オリーブ搾油果汁廃液による環境負荷を軽減、産業育成を支援

国際協力機構(JICA)は6月30日、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において、アムズ株式会社(金沢市、谷口 敏 代表取締役)が提案する「油脂分解菌浄化システムの導入によるオリーブ搾油果汁廃液の汚染力低減に関する案件化調査」(モロッコ)を採択しました。

モロッコ政府は2020年までにオリーブ生産量を現状の約2倍にあたる250万トンに増大し、オリーブオイル加工業の育成および輸出量の拡大を目標に掲げています。一方で、オリーブの搾油過程で生じる「マルジン」と呼ばれる搾油果汁廃液などの排水・残渣の不適切処理や不法投棄などにより、工場集積地周辺の河川の汚染や貯留池付近の悪臭が深刻な問題となっており、適切な処理に対し緊急対応が求められています。

この状況に対し、国内各地で環境事業を実践している同社の有する排水・汚水処理および処理槽技術を用いた下図のような「油脂分解菌浄化システム」を活用し、油脂分を分解・除去する微生物と浄化槽を組み合わせた浄化作用による「マルジンの汚染力低減」を図ります。これにより環境保全効果の高い処理システムの確立および環境負荷の少ないオリーブ産業の持続的発展を目指します。



本調査では、モロッコ関係省庁の取り組みやマルジン水質分析、貯留池の状況や問題の実態に関する調査、また関係機関・自治体・搾油工場組合等関係者との協議を通じた支援計画の検討や技術紹介等を通じた理解促進、そして将来現地での製造・販売事業化に向けた調査に関する活動を行います。

同社の取り組みにより、モロッコで適切な油脂含有排水処理が行われ、有機汚濁や悪臭発生の指標となる処理水質基準への適合および環境保全を意識したオリーブ産業の活性化に寄与することが期待されます。さらに北陸地域経済の活性化、両国の互助関係構築等に繋がることも期待されます。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2016年度第1回分は今年2月に公示を行いました。117件の応募のうち35件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考：(プレスリリース)案件化調査2016年度第1回公示の採択結果について

URL：<http://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 北陸 松柴(まつしば)

TEL: 076-233-5931 e-mail: Matsushiba.Yuka@jica.go.jp